

## 文教厚生委員会会議録（要点筆記）

令和5年11月28日(火)

午後 1時30分 開会

場所：委員会室

### ○坂井美穂委員長

ただいまから、文教厚生委員会を開会します。協議題1 閉会中の調査事項についてを行います。先般の県内視察、県外視察を終えて、皆さまから報告書を事前にいただいておりますので、順にそのご意見について、ご説明、ご提言等をお願いしたいと思います。

### ○渡邊昭司副委員長

内容や自分の中で提言に当てはめられるものは記載のとおりです。皆さんのご意見も聞き、半田の素材、特色の確認や洗い出しを行った中で、まねができる仕組みを皆さんと協議し、委員会報告に反映していけたらいいと思います。具体的な発言は長くなってしまうので、控えさせていただきます。

### ○田中高久委員

豊明市については、企業との連携が円滑にできていると感じ、半田市も積極的に企業に提案をしていっていいのではと思いました。また、高齢の方が自分で歩ける範囲で、福祉事業所だけでなく、民間企業も選択肢の1つとして取り組んでいければよいと感じました。また、自立までの段階を示したうえで、サービスの構築ができればいいのではないかと思います。

県外視察については、ささえあいポイント制度などは、一般市民の人も参画できるような仕組みをすることで、介護人材の確保につながるのではないかと思います。また、介護にやりがいを感じてもらうためにも、奨励制度も検討してもよいのではないかと思います。

### ○加藤美幸委員

病院との連携や、市民活動との連携など、参考になることがありました。特に、多くの人を巻き込むような施策と、既存制度の拡充や、例えば表彰制度のような、すぐにでも取り組める制度は、取り組んでいけばよいのではないかと思います。

### ○有留麻由委員

私たちが考えつかないような資源をコーディネートし、うまく必要な人と資源をつないでいると感じました。柔軟性のあるサービスが多かったので、半田市でも取り組めるようなことがあるのではないかと考えました。その中で、移動手段が重要だと思っており、武蔵野市、八王子市は、都会であるため移動手段が充実していました。生駒市や豊明市は、コミュニティバスなどが充実していて移動手段が確保されている点が良い点だと思いました。生駒市では、有料の介護サービスはないとのこと、お金を使わなくてもサービスが受けられるというこ

るも重要になるのではないかと思います。また、人材不足については、待遇が改善されなければ、解消されないものではないかと思いました。

#### ○澤田勝委員

豊明市は、藤田医科大学もありますし、UR 都市機構もあるため地域資源に恵まれており、半田市で同じことを実施するのは難しいと感じました。内容については、半田も劣ることはないと感じました。参考になるところは、提言に盛り込んでいきたいと考えています。武蔵野市と八王子市については、東京都の補助金を活用しており、愛知県でも同じことができるのかは疑問です。生駒市は、生駒市特命監の田中氏が引っ張っており、独自の考え方をお持ちの方で、そういった点では、人も重要になると思います。

#### ○竹部益世福祉部長

介護予防は半田市でもやっていますが、総合事業の検証をしっかり行い、事業再構築の検討も必要だと思いました。生活支援コーディネーターも半田市では、1 中学校区につき 1 名の割合で配置してはいますが、先進自治体では、人口割合からすると、半田市よりかなり充実した配置になっていると思いました。包括支援センターも同じことが言えますが、人口に対する配置割合について、半田市が一番厳しいところで設定している中で、余裕をもって対応できるような体制を先進地はやっていたなという印象があり、予算との兼ね合いもありますが、体制を検討したうえで、新しい事業に取り組んでいきたいなと思いました。また、民間との連携をうまくやっているとしました。半田市でも包括連携協定をよく結びますが、講演の講師等、依頼できることが限られているため、具体的なサービスを設定した協定を結ぶのもよいと思いました。また、県外は、東京都の補助金を使った 2 市でしたので、愛知県の補助金をもう一度見直すと、半田市でもできる事業もあるのではないかと思います。また、介護事業所の一覧を作成しているなど、周知の仕方に工夫があると感じました。仕事の魅力を PR するには、就職フェアなども効果的ではないかと思いました。生駒市の取り組みについては、半田市でも同じような取り組みは実施しています。ただ半田市はかなり限定して実施しています。例えば医療に 1 年受診していない方に対してアプローチをしています。生駒市は全数にアプローチしています。生駒市のように全数にアプローチするためには、人的資源が必要となるため、限られた人的資源の中で実施できることを検討していく必要があると感じました。

#### ○沢田義行高齢介護課長

地元企業をうまく使い、保険外サービスを半田市の地域特性がある中でうまくやっていければよいと感じました。

#### ○坂井美穂委員長

今回、総合事業については、軽度者の方をいち早く元の生活に戻れるようにすることで、結果として、介護人材の確保につながっていくということで、それが現場に精通しているという話を聞きました。半田市でも、もし協力していただける組織があれば、そういった支援メニューを総合事業の中に入れていければよいと感じました。

また豊明市でも実施されていましたが、要支援版の多職種合同ケアカンファレンスが、定期的実施されているということで、ここで保険外サービスを詰めていけるような環境を作れるといいと感じました。公的外サービスの拡充は、介護人材の確保や、重度化防止にもつながると思います。生活支援コーディネーターの増員や部署内の職員にも参加できる方がいるとよいと感じました。

また、移動サービスは、総合事業の中でできるのもいいですし、民の力を借りることで、半田市でも充実させていければよいと感じました。

県外視察では、C型サービスをやっているのは、生駒市と八王子市でしたが、いずれも効果は出ているということで、八王子市が特徴的な印象でした。通所Cのリハビリは、回復率が非常に高かったですが、利用率が低いということで導入には課題があると感じました。ただ、体に一切触らずに事業を実施しているということで、作業の標準化に課題があるのであれば、この事業は効果的なのではないかと感じました。

八王子と武蔵野市は補助金が充実している中で、うまく活用していると感じました。愛知県の補助金を見る中で、ICTの導入や、外国人材の活用についての補助は、しっかりした補助が受けられるようでしたので、活用できるのではないかと感じました。また、表彰制度は介護職の地位の向上とモチベーションの向上につながるため、効果的な取り組みであると感じました。

ありがとうございました。皆さんの意見を聞いて、新たにご意見等ありましたらお願いします。

【「なし」との声あり。】

#### ○坂井美穂委員長

ありがとうございます。本日いただいた意見は、委員会報告作成の際に反映させていただきます。よろしくお願いいたします。次に、AIケアプラン作成システムに係るオンライン勉強会について、お話しさせていただきます。

開催案内は、改めて送付させていただきますが、日時は12月21日10時から、委員会室で開催します。先方は株式会社シーディーアイさんで、豊橋市で実証実験を行った実績があります。勉強会の内容については、別添「勉強会の内容」をご覧ください。

主に、どのように業務負担の軽減や、ケアマネジメントの質の向上、教育機会の創出とスキルの向上につながっていくのかについて、お話を伺います。また、システム利用時のメリット及びデメリットについて、実際に利用しているケアマネジャーの声も聞けたらと思っています。最後にAIケアマネジメントについてですが、豊橋市で実証実験を行った際には、豊橋市が持つデータをすべてシステムの中に取り入れ、利用者のデータと比較し、重度化が防止できる個人に合ったサービスをAIが計算して提示してくれるイメージです。

AIケアマネジメントは、スケールメリットがないと使えないといった話がある中で、厚生労働省が全国から同じようにデータを集め、最適なケアプランを提示するといった類似の仕組みがあり、その仕組みとの違いについてもお聞きできればよいかと思います。

この件について、何かありますでしょうか。

【「なし」との声あり。】

#### ○坂井美穂委員長

ありがとうございます。次に協議議題2その他についてを行います。そのほかに何かあれば、よろしくお願いいたします。

す。

【「なし」との声あり。】

○坂井美穂委員長

ないようですので、これで協議題2については、以上とします。以上で、本日の協議題については、すべて終了しました。文教厚生委員会は閉会します。

閉会 午後2時00分